

時間割コード	KB1101～1107	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (現代社会)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	各授業担当教員				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

大学における学びの技法

## 授業の概要/Course Overview

現代社会学科での学修への導入を図る。グローバル化する社会の中でキャリアを意識しながら、大学生活を自律的・意欲的に送るための知識と姿勢を身に付ける。また、専門分野の学修に欠かせない情報検索、読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表の初歩的な技能と作法を、現代社会に関するテーマを題材としながら習得するとともに、その基盤にある思考力、判断力、表現力の重要性を理解して学修の出発点に立つことを目指す。

## キーワード/Keyword(s)

主体的な学び、キャリア、情報検索、文献読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表、思考力、判断力、表現力

## 到達目標/Learning Objectives

(1) 自律的・意欲的な大学生活を送るための基本的な知識・技能、主体性を身に付けている。(2) 現代社会に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤を身に付けている。(3) 大学での学修に必要な、情報検索、文献読解、分析、レポート・論文執筆、議論、口頭発表等の初歩的な技能と作法を身に付けている。(4) 他者と協力しながら課題を解決するためのコミュニケーション力、思考力、判断力、表現力の基盤を身に付けている。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) 4/10 シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任  
自己紹介、大学生活に関する注意 (大学HP、掲示板、担任制度、オフィスパワー、アポイントの取り方、ブラックバイトなど)  
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (2) 4/17 高校から大学への「学びの転換」：グローバル化する社会と大学における学びについて  
現代社会学科のカリキュラムと4年間の履修計画 (含：クォーター制、CAP制、GPA)  
大学4年間で学びたいこと  
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (3) 4/24 キャリアについて学ぶ：外部講師による講演
- (4) 5/1 キャリアについて考える：グループディスカッション  
外部講師の講演内容についての振り返り、議論  
(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)
- (5) 5/15 図書館の活用：図書館オリエンテーション
- (6) 5/22 資料の探し方、レポートの書き方 (入門編)  
資料検索の方法、レポートの文体、事実と意見、正しい引用等
- (7) 5/29 選挙について (外部講師)  
大学生活におけるトラブルについて考える／選挙について：グループディスカッション  
外部講師の講演内容についての振り返り、議論

(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)

(8) 6/5 大学生活におけるトラブルについて学ぶ：外部講師による講演

(9) 6/12 「聞く」「話す」に関する技法と作法

議論の仕方、口頭発表の仕方、発表の聴き方

(10) 6/19 「読む」「書く」に関する技法と作法

テキストの読み方、ノートの取り方、レポートの書き方（構成、論理性）、レジユメの作成

(11) 6/26 学習テーマに関する調査と報告（1）：テーマを決める

(11)から(14)では、(9)(10)で扱った「聞く」「話す」「読む」「書く」に関する技法と作法を、簡単な調査や文献講読等をおして習得することを目指す。

(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)

(12) 7/3 学習テーマに関する調査と報告（2）：関連資料の調査（図書館等を利用）

(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)

(13) 7/10 学習テーマに関する調査と報告（3）：発表の準備（ラーニングコモンズ等を利用）

(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)

(14) 7/17 学習テーマに関する調査と報告（4）：発表と議論

(アクティブ・ラーニング手法：ディスカッション)

(15) 7/31 まとめ、期末レポートについて

【授業外学修】教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容のまとめ、および学習テーマに関する調査は重要な授業外学修である。

## 履修上の注意/Notes

指定されたクラスを受講すること。（受講クラスは新入生ガイダンスの際に告知する。）

この授業では、口頭発表等に必要な準備を自主的に行うことが要求される。教えてもらうという姿勢ではなく、自らが問題点を見つけて情報を収集し解決していくという積極的な姿勢で授業に臨むこと。グループディスカッション、グループワークなどに積極的に取り組むこと。

オフィスアワー：各担当教員が設定。

## 情報端末の活用

## 成績評価基準/Evaluation criteria

評価基準を記したルーブリックを第1回授業時に配付する。

## 成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。口頭発表・授業・課題への取り組み(60%)と期末レポート(40%)に基づき評価する。評価に際しては、ルーブリックを利用する。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	

教材費	
-----	--

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング -大学で学ぶための25のスキル-
著者名	吉原恵子/他
出版社	実教出版
出版年	
ISBN	
教材費	

### 参考書2

書名	大学 学びのことはじめ -初年次セミナーワークブック-
著者名	佐藤智明/他
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	
ISBN	
教材費	

### 参考書3

書名	知へのステップアップ -大学生からのスタディ・スキルズ-
著者名	上村和美/他
出版社	くろしお出版
出版年	
ISBN	
教材費	

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

○
---

## PBL科目

--

## 地域志向科目

--

## 使用言語

日本語のみ
-------

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB1108～1115	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (法律経済)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	各授業担当教員				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

大学と法学・経済学

## 授業の概要/Course Overview

自らのキャリアを意識し、学内外での自律的・意欲的な生活を送るための知識・技能を身に付ける。また、専門分野を初めグローバル教育などの分野で、主体的な学修を進めるための思考力・判断力・表現力の基礎を身に付ける。そのため、社会の問題や専門分野について、コミュニケーション力や課題発見・解決力の向上を意識し、テーマを設定し、調べ、考え、議論し、その結果を口頭で発表し、レポートとしてまとめていく。

## キーワード/Keyword(s)

キャリア、自律的・意欲的な生活、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力、課題発見・解決力、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート

## 到達目標/Learning Objectives

- (1) キャリアを意識した学内外での自律的・主体的・意欲的な生活と学修のための知識・技能を身に付ける。
- (2) 社会の問題や専門分野を俯瞰的に理解し、それらを学ぶための思考力・表現力の基礎を身に付ける。
- (3) 法学・経済学を学修していくための基本的なスタディ・スキルを身に付け、それらを効果的に応用できる。
- (4) 他者と協力しながら課題を発見・解決するためのコミュニケーション力・行動力・判断力を身に付ける。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### 【授業内容】

第1回 大学入門 (1) : シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任

①口頭ないし文書で自己紹介する。

②教員による履修要項を用いた履修指導

第2回 大学入門 (2) : 高校から大学への「学びの転換」、グローバル化する社会と大学における学びについて

①「お勉強」と「研究」の違い

②ディスカッションと作文

③iOPと留学・インターンシップ・ボランティア・自由研究など

第3回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (1) : キャリアについて学ぶ

・学外講師によるキャリアについての講義

第4回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (2) : キャリアについて考える

①キャリアについてのディスカッション

②キャリアについての作文

第5回 キャリアと大学・社会生活について学び考える (3) : 消費生活のトラブルについて学ぶ

・学外講師による消費生活のトラブルについての講義

第6回 大学入門 (3) : 図書館の活用

## ①図書館ガイダンス

### ②文献情報・データの検索体験

第7回 キャリアと大学・社会生活について学び考える(4) : 働く場のトラブルについて学ぶ

・学外講師による働く場のトラブルについての講義

第8回 キャリアと大学・社会生活について学び考える(5) : 選挙について学ぶ・考える

①学外講師による選挙の意義についての講義

②消費生活・働く場についてのトラブル、選挙の意義について、ディスカッション・作文

第9回 大学入門(4) : 「読む」、「書く」に関する作法と技法

①文献・資料読解のポイント

②レポート作成のポイント

③共通テキストの利用

第10回 大学入門(5) : 「聞く」、「話す」に関する技法と作法

①プレゼンテーションにおける聞き方(メモ取り、質問など)

②プレゼンテーションにおける話し方(ハンドアウト、話法など)

③共通テキストの利用

第11回 法学・経済学について学び考える(1) : 教員の研究教育内容を知る

①教員リスト・研究者総覧などによる教員情報の検索・収集

②教員訪問のためのグループ分け・質問作成

第12回 法学・経済学について学び考える(2) : 教員訪問

①教員の研究教育内容についてのヒアリング

②教員の研究教育内容についての報告準備

第13回 法学・経済学について学び考える(3) : 教員訪問の結果報告会(1)

①法学系教員の研究教育内容についての取りまとめ

②法学系教員の研究教育内容についてのハンドアウトとパワポに基づくプレゼンテーション

第14回 法学・経済学について学び考える(4) : 教員訪問の結果報告会(2)

①法学系教員の研究教育内容についての取りまとめ

②経済学・経営学系教員の研究教育内容についてのハンドアウトとパワポに基づくプレゼンテーション

第15回 法学・経済学について学び考える(5) : レポート作成の指導

①法学・経済学とはどのようなものか?

②法学・経済学を通じて何ができるか?

### 【授業外学修】

(1)授業は『学修の手引き』に基づいて行う。該当する項目を事前に読んでから授業に参加すること(第1回:第1章、第2回:第2章、第6回:第5章、第9回:第3章、第10回:第4章)。

(2)担当教員の指示・指導や教科書・参考書に基づき、基本的なスタディ・スキルにつき授業の事前に学んでおくとともに、ハンドアウト作成やプレゼンテーションの準備を行うこと。

(3)学外講師による講演回は、内容を取りまとめるためのレポート用紙を配布する。記入した内容にしたがって次回以降にディスカッションを行い、授業中に得た知識や考え、教員や学生から受けた報告をもとに作文を作成する。事前に自分の意見や気づいたことをメモしておくとともに、質問事項などを事前に考えておく。

### 【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回、第4回、第8回は、テーマに応じたグループ・ディスカッション、発表や作文を行う。

(2)第11回は、教員訪問にあたり、専門領域および質問事項に関する下調べを行う。

## 履修上の注意/Notes

①演習形式の授業のため、無断欠席や遅刻はしないこと。病気などでやむを得ず欠席をする場合には、事前に教員に電子メールなどを通じて連絡をしておくこと。②ディスカッションやグループワークなどを通じてコミュニケーション力の向上を図ること。③オフィスアワーは各担当教員によって設定されているので、積極的に利用すること。

## 情報端末の活用

①講義で使用する資料やプリントを教務情報ポータルシステムを通じて配信することがある。②教員訪問に際しては、授業内で教員の専門分野や業績などについて検索してもらうことになるので、第11回目やそれ以降は、各自PCなどを持参すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識や考え方を十分に理解し、その仕組みについて説明できている。  
A：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方を理解し、その仕組みについて説明できている。  
B：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方を概ね理解し、その仕組みについて説明できている。  
C：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方について最低限の理解をしており、その仕組みについて説明できている。  
D：大学生活に関わる法や経済の基本的な知識と考え方が理解できておらず、その仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価の基準は、ハンドアウト・パワポ（20%）、プレゼンテーション（20%）、レポート（30%）、授業への取り組み（30%）とする。評価に際しては、ルーブリックを利用する。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	『茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－』
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子ほか著
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	9784407340617
教材費	1320

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	2090

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会 編著
出版社	くろしお出版
出版年	2019
ISBN	9784874247891
教材費	1800

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--



時間割コード	KB1116～1122	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L (人間文化)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員 (ローマ字表記)	各授業担当教員				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

知的探求入門

## 授業の概要/Course Overview

少人数のゼミナール形式を通じて、大学における主体的な学びの形を知り、グローバル化する社会の中で自らのキャリアを意識しながら、大学生生活を自律的・意欲的に送ることができる知識・技能・姿勢を身に付ける。基礎的なテーマについての調査・分析・発表・議論を通じて、人文科学の研究を行う上で必要なコミュニケーション能力及び基礎的スキル、課題解決のための思考力・判断力・表現力の基礎を身に付ける。

## キーワード/Keyword(s)

大学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査、分析、発表、議論、コミュニケーション、グループディスカッション、人文科学

## 到達目標/Learning Objectives

(1)自律的・意欲的な大学生生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性を身に付けている。(2)人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤を身に付けている。(3)人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を身に付けている。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) 4/9 シラバスを利用したガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任  
：口頭による自己紹介を行う
- (2) 4/16 高校から大学への「学びの転換」～グローバル化する社会と大学における学びについて  
：大学での学びについてのグループディスカッションを行う
- (3) 4/23 「読む」「書く」に関する技法と作法 (文献読解とレポートの書き方)  
：教科書での学びの後にグループディスカッションを行う
- (4) 4/30 「聞く」「話す」に関する技法と作法 (プレゼンテーションの基本～テーマ設定、レジメ作成、発表と質疑応答)  
：効果的なプレゼンテーションについてグループディスカッションを行う
- (5) 5/7 合同授業、図書館の活用：図書館オリエンテーション
- (6) 5/14 合同授業、大学生生活におけるトラブルについて学ぶ：充実した大学生生活を送るための心構え・注意点について学ぶ (外部講師)
- (7) 5/21 前半 (合同授業)：選挙について (外部講師)、後半：大学生生活におけるトラブルおよび選挙について考える (第6回および第7回前半の授業内容を踏まえたグループディスカッションを行い、理解を深める)
- (8) 6/4 合同授業、キャリアについて学ぶ：4年後の自らのキャリアとそれを意識した学びについて考える (外部講師)
- (9) 6/11 キャリアについて考える：前回の授業内容を踏まえたグループディスカッションを行い、理解を深める
- (10) 6/18 プレゼンテーションの練習 (1)～研究室訪問報告①  
：研究室訪問の発表と質疑応答を行う
- (11) 6/25 プレゼンテーションの練習 (2)～研究室訪問報告②  
：研究室訪問の発表と質疑応答を行う
- (12) 7/2 学習テーマに関する調査と報告 (1)

- : 発表と質疑応答、議論を行う
- (13) 7/9 学習テーマに関する調査と報告 (2)
- : 発表と質疑応答、議論を行う
- (14) 7/16 学習テーマに関する調査と報告 (3)
- : 発表と質疑応答、議論を行う
- (15) 7/30 まとめ
- : グループディスカッションを行う

※合同授業の回は直接「共通教育棟10番教室」に集合すること。

※授業の進行・順序については変更になる場合がある。休講等により日程が変更になる場合は担当教員の指示に従うこと。

【授業外学修】教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

研究室訪問やそのまとめ、および学習テーマに関する調査は重要な授業外学修である。

## 履修上の注意/Notes

指定されたクラスを受講すること。遅刻は厳禁。授業の進行順序については変更になる場合があるので、担当教員の指示に従うこと。自ら問題点を見つけて情報を収集し解決して行くという主体的・積極的な姿勢で授業に臨むこと。グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。 オフィスアワー：各担当教員が設定。

## 情報端末の活用

図書館の検索実習においてはパソコンを使用する。その他は教員が授業中に指示する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を十分に修得している。

A：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を修得している。

B：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本を概ね修得している。

C：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本について最低限の修得をしている。

D：自律的・意欲的な大学生活を送るために必要な基本的な知識・技能、主体性、人文科学に関する幅広い知識・俯瞰的理解の基盤および人文科学を学修していくために必要なスタディ・スキルの基本が修得できていない。

## 成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価は①平常の授業における取り組み (30%、評価の観点には到達目標の1と2)、②プレゼンテーション (30%、評価の観点には到達目標の3)、③期末レポート (40%、評価の観点には到達目標の3) により行う。評価にルーブリックを利用する。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	

出版年	
ISBN	
教材費	

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子, 間瀬泰尚, 富江英俊, 小針誠 著
出版社	実教出版
出版年	2011
ISBN	9784407322439
教材費	1200

### 参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志 編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	1900

### 参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会 編著
出版社	くろしお出版
出版年	2015
ISBN	9784874246504
教材費	1800

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

○
---

**PBL科目**

--

**地域志向科目**

--

**使用言語**

日本語のみ
-------

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--